

ハローワークの役割と 地域障害者就労支援事業

ハローワーク渋谷
専門援助第2部門
田口勝美

ハローワークにおける障害者の就労支援①

《職業紹介》

- 障害者専門の職業相談窓口を設置
- 求職登録制 求職活動支援⇒就職後の職場定着指導
- 職業センター、就業・生活支援センター等就労支援機関との連携
能力評価、重度判定、職業準備訓練、ジョブコーチ支援等
- 能力開発相談・指導（職業訓練の受講相談、あっせん等）
- 求人開拓（雇用指導官との連携による求人確保、一般求人の転用）
- 委託訓練、トライアル雇用制度を活用した就職支援
- 予約相談 ■ 同行紹介 ■ 手話相談日の設置

ハローワークにおける障害者の就労支援②

《企業指導》

■雇用率達成指導の厳正な実施 《雇用指導官》

個別企業に対して担当制による具体的・提案型指導を実施

■企業への支援

☆職業センター、就業・生活支援センター、能力開発校関係機関、
就労支援機関の紹介(各機関の支援サービス、障害者情報の提供)

☆各種支援制度の周知(委託訓練・トライアル雇用、助成金等の案内)

☆就職面接会・ミニ面接会(管理選考)の開催

☆「障害者雇用支援プロジェクト委員会」を設置(企業指導の支援)

構成メンバー:東京経営者協会、(社)東京都障害者雇用促進協会、
東京障害者職業センター、ハローワーク、東京労働局

実施内容:他社雇用事例の紹介、就労支援機関の紹介、支援メニューの紹介etc
H17年度「障害者雇用支援セミナー」10回開催、H18年度は9回開催予定

地域障害者就労支援事業

事業概要

▶ 障害者就労支援チームの設置

就職を希望する障害者を対象とした支援チームを設置し、希望者個々の意欲・能力に応じた支援計画を作成、就職準備から職場定着までの一連の支援を行う。

▶ 福祉施設等に対する就労支援ガイダンス

施設利用者への就労支援が効果的に行えるよう、施設支援員に対しガイダンスを行う。

▶ 企業との連携による就労支援

福祉施設等での訓練(作業)と企業での実習を組合わせた支援を行う。

就労支援チームによる支援

福祉施設等

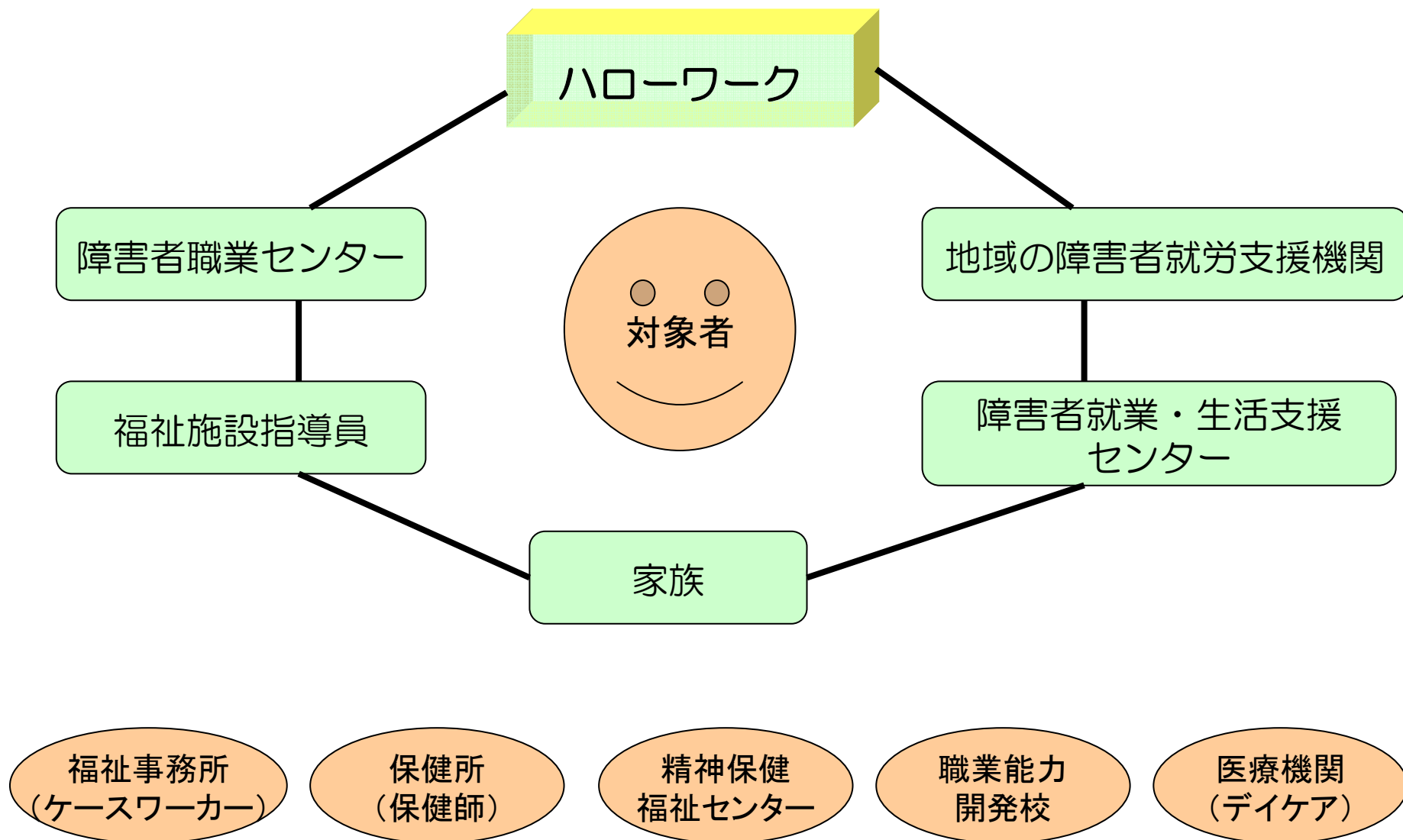
授産施設／更生施設／小規模作業所
医療機関／保健福祉施設
盲ろう養護学校／
障害者就労・生活支援機関、施設等

支援チーム

ハローワーク／福祉施設
地域就業・生活支援センター
障害者職業センター／保健所
精神保健福祉センター
職業能力開発校／地方公共団体
医療機関／対象者の関係者 等

- 施設等利用者で就職を希望する障害者の選定（支援対象者）
- 就職環境の確認（本人の気持ち、施設等の支援体制、家族の理解）
- 対象者の現状を十分に把握し、チーム構成を考える
- 対象者個々のニーズに応じた支援計画の策定
- 支援の実施（状況に応じ構成員の追加、変更）

チーム構成のイメージ



支援計画に基づいた支援の実施

ハローワーク・就労支援機関

- 職業ガイダンス
(対象者向け・支援員向け)
- 模擬面接
- 知的障害者実習受け入れ
- 精神障害者職場体験
- 企業への同行面接
- 就職後の職場定着
- 支援機関が行う訓練事業
- 企業開拓・情報提供

各種制度・資源の活用

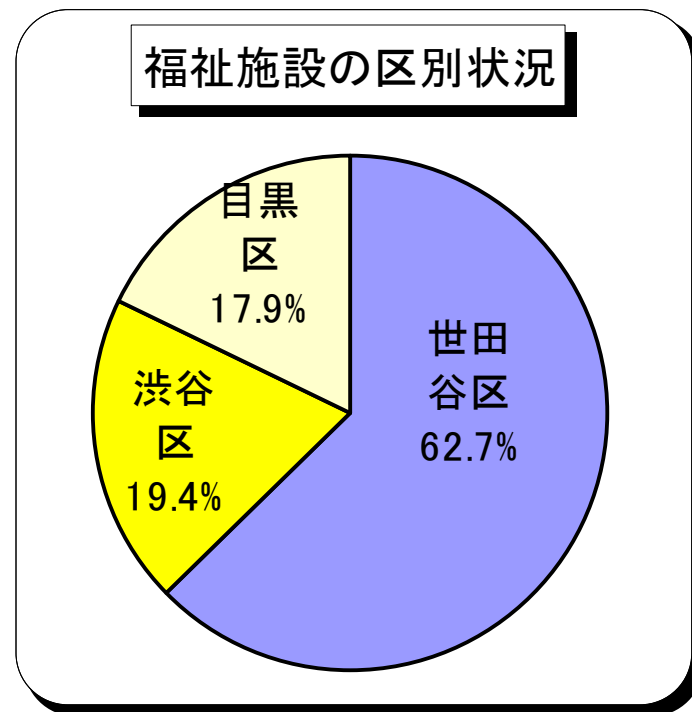
- 委託訓練制度
- トライアル雇用制度
- 特定求職者雇用開発助成金
- 企業との組合わせ実習
- 東京障害者職業センター
 - ・ 職業評価
 - ・ ジョブコーチ支援
 - ・ ワークトレーニングコース
 - ・ 自立支援コース

対象者個々人の状況により支援策をコーディネートし、一般就労を目指す

ハローワーク渋谷の具体的な取組み

管内福祉施設の把握

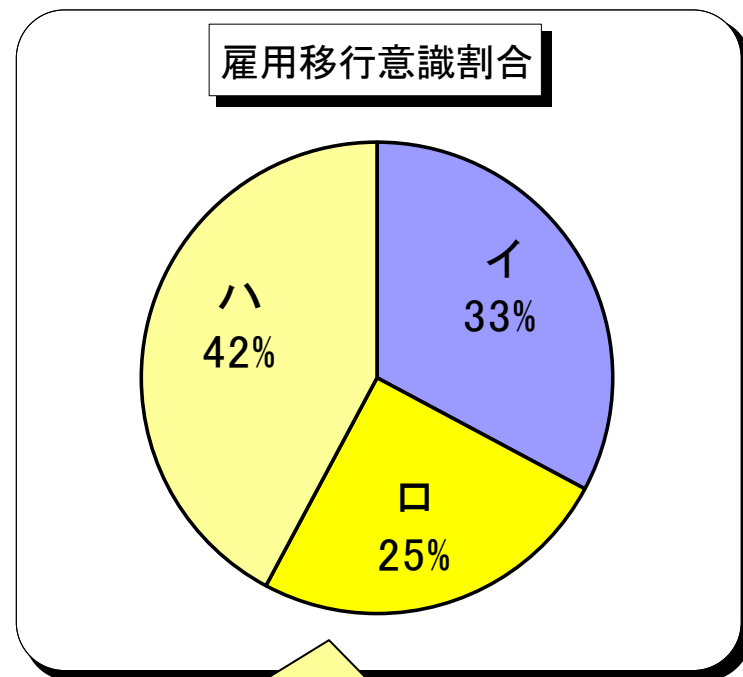
		世田谷区	渋谷区	目黒区	計
知的	通所授産施設	7	0	3	10
	小規模作業所	7	9	5	21
精神	通所授産施設	7	0	0	7
	共同作業所	15	4	4	23
身体	入所授産施設	3	0	0	3
	通所授産施設	2	0	0	2
	小規模作業所	1	0	0	1
計		42	13	12	67



一般就労への意識

就労移行への意識確認を行った施設52件

区分	内容	知的施設	精神施設	計
イ	一般就労に向けた意識を強く持っており、具体的な取組みも行っている	9	8	17
ロ	利用者から就労への希望があれば協力。ただし具体例は出ていない	7	6	13
ハ	施設の役割、利用者の状況などから、就労移行についてはまだ考えていない	9	13	22



約6割の施設で、一般就労への意識を持っている。

福祉施設を訪問して

一般就労に意欲的

- 作業を通じ、就労に必要な力をつける事を目的としている。進路先として一般就労を選択できるよう5年間の通所期限を設けている。新規事業との連携歓迎。
- 就労希望者が何名かいるが、細かな支援の必要を感じている。作業所・就労支援センター・ハローワークが役割分担し個別的な支援として取組めると良い。
- 作業所で自信をつけながら就労にもチャレンジして欲しい。体調の安定している人を対象に相談支援体制を組みたい。複数の相談先があることは本人の安心にもつながる。
- 10年前から就労を目指す施設として支援プログラムを組み、実施している。地元の商店主との交流の中から実習先を開拓し、就労につなげる努力をしている。

特に就労は考えていない

- 利用者の何割かは就職経験があるが、それ以外の方は特に就職希望は出ていない。家族のニーズも居宅サービスの充実を求める声が多い。
- 通所により、基本的な生活習慣を身につけるための支援を行い、社会参加と自立の促進を目的としている。
- 利用者のうち若い世代には一般就労の経験をして欲しいと考えているが中高年層はリタイア後の安定の場という意識が強い。
- 地元商店街への買い物、配達などを通じ、地域に自然と溶け込み生活していくことを目指しているため、一般就労への移行は特に意識していない。

支援対象者

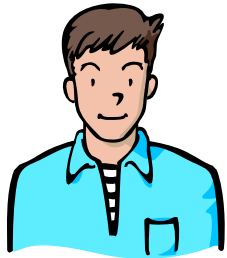
17年4月～18年3月の間で支援対象とした人は46人

	人数	平均年齢	うち職歴有	世田谷区施設	29人
精神	9人	39歳	6人	渋谷区施設	7人
知的	37人	31歳	12人	目黒区施設	10人

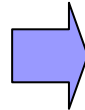
支援結果

	就職	職場実習	求職活動中	活動中止	支援策再考
精神障害者	4	0	3	1	1
知的障害者	15	0	19	0	3
計	19	0	22	1	4

ケース事例 1

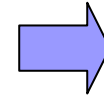


- ・精神（統合失調症）
- ・作業所利用
- ・手帳未申請



支援チーム

- ・ハローワーク
- ・作業所所長
- ・家族
- ・主治医

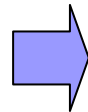


支援計画検討

- ・就労意思の確認
- ・障害オープン
- ・症状安定
- ・家族の理解
- ・就労準備支援

ハローワークでの支援実施

- ・専門アドバイザーとの連携
- ・履歴書添削、面接訓練
- ・雇用指導官との連携



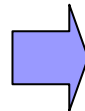
合同面接会
(3社面接)

不調

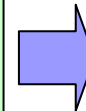
1ヶ月ほど
就職のモチ
ベーション
下がる

ハローワークで3日
間の体験実習を計画

支援チームに就労・生活支援
センターも参加、窓口中心の
企業検索。
同時進行で手帳の申請



企業開拓→面接→ハローワ
ーク職員同行

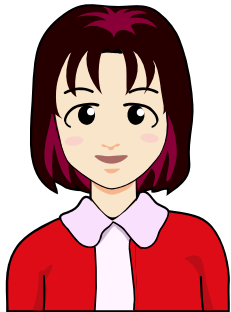


採用！

職場定着訪問



ケース事例 2



- ・精神（統合失調症）
- ・作業所利用
- ・手帳あり

支援チーム

- ・ハローワーク
- ・就労支援センター
- ・家族
- ・主治医

支援計画検討

- ・就労意思の確認
- ・症状安定
- ・家族の理解
- ・委託訓練（PC）

窓口で企業開拓、面接応募（クローズ）
採用

採用1週間毎日支援センターへ電話、不安の相談

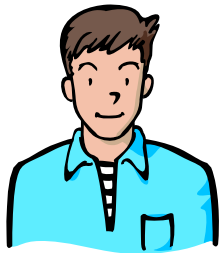
障害オープン

企業の担当上司の理解により、継続勤務

企業理解のもと、本人は2ヶ月頑張ったが、作業がなかなか覚えられなく支援センターへ朝・夕電話

障害者職業センターと連携しジョブコーチ支援を依頼。本人・会社・支援センター・職業センター・ハローワークでケース会議。
ジョブコーチ導入に理解

ケース事例 3



- ・知的（自閉傾向）
- ・作業所利用
- ・手帳あり
- ・一般就労経験なし

支援チーム

- ・ハローワーク
- ・作業所スタッフ
- ・家族

支援計画検討

- ・就労意欲をどう高めるか
- ・仕事体験
- ・会社見学
- ・家族へのアプローチ

- 事業所の見学実施（事務補助）
- ・シュレッダー
- ・メール仕分け

仕事の理解

- 見学事業所で2週間の実習（初日及び途中数回ジョブ的に支援）

支援会議

- ・仕事への興味
- ・もっとやってみたい

3ヶ月間のトライアル
雇用開始

トライアル後常用移行

- ・作業所スタッフが本人及び家族の気持ちをよく理解していた。
- ・チーム内での情報共有ができていた
- ・企業との連携、障害理解があった